

## 【様式 4】

# 令和 5 年度 学校総合評価

## 6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「共通科目・専門教科（商業）教育」「部活動」「多彩な活動」等あらゆる機会を通して人格の形成を目指しながら、地域社会や職場に貢献できる実践的な逞しい生徒の育成を図っている。本年度も、5 項目の重点課題を挙げて、全教職員で共通理解を図りながら取り組んだ。

- (1) 「学習活動 1」では、新旧課程が混在し観点別評価の導入 2 年目であったが、授業内容の理解度が目標値を超えることができた。今後は、教員と生徒間の成績評価に関する認識を統一するために、ループリックのような到達目標及び到達レベルが明確な評価指標の利用について検討していきたい。また、ICT 機器・デジタル教材の活用についても一定期間を経た段階でその成果の検証に取り組む必要がある。
- (2) 「学習活動 2」では、基礎科目、重点科目での理解度の割合が目標を大きく超えている。検定では、思考力、判断力、表現力を問う問題が多くなり、それに対応するため論理的思考力を身に付け物事の因果関係を把握し、合理的な解決策を見出す能力の育成が重要である。また、後輩への資格取得指導などの取組は、良き校風としてそのような習慣を継続し推進していきたい。
- (3) 「学校生活」では、遅刻者 0 の日数が 120 日を超えた。校則に違反した生徒に対しては、再発防止のため面談に重点を置くよう指導方法を変更した。保護者、地域、警察等との連携を深め協力を得ることにより、登下校時の自転車事故の減少やスマートフォン、SNS の利用マナーの向上に結びつくよう生徒の意識の向上に努めていく必要がある。
- (4) 「進路支援」では、1、2 年生に対する進路支援を実施する時間は、概ね達成できた。進路実現 100%という目標に向け、今まで以上に 3 年間を見通した系統的な進路指導の充実を目的として、学年に応じた段階的な進路学習の目標を設定し、生徒が職業や進学先について自己理解を深め、適性を知って進路を決める時期の早期化を図っていきたい。
- (5) 「特別活動」では、部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合が目標を上回った。部活動での学びを社会に出た際の在り方や生き方と結びつけて理解させ、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう指導していきたい。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) DX の進展や AI の導入により「定期的にデータ・数値を扱う仕事」等は、機械に置き換えられる可能性がある。そのような社会を生き抜くために求められる能力として論理的思考力が重要となる。思考力、判断力、表現力を身に付けた人材の育成に取り組んでいく必要がある。
- (2) 「課題研究」「株式会社りゅうりゅう」での学びは、課題解決型学習として商業高校での学びを生かしており、地域社会を支える有用な人材の育成につながっている。次年度は、本校生徒が、講師となり「14 歳の挑戦」事前研修として中学生へのマナー講座等の実施を検討している。また、地元地域の協力を得ながら地域協働の活動（商品開発、販売活動等）を展開し、その取り組みを広く社会に知ってもらえるよう PR していく必要がある。
- (3) 令和 6 年度のスクールポリシーを今までのものより具体的な表現とし生徒、保護者、関係者に分かりやすいものに変更した。本校の育成を目指す資質・能力（グラデュエーション・ポリシー）についてその達成度合いを測定・評価し、改善に結びつくよう取り組んでいきたい。

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践と確かな学力の向上	
現 状	生徒の興味関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度、定着状況に差が表れている。一方では、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、学習を深めるための授業改善が進められ、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高めた確かな学力を定着させることが必要である。	
達成目標	校内研修(研究授業、互見授業) 授業を実施した回数 授業を参観した回数 (レポートの枚数)	授業内容の理解度(興味関心の喚起) 「学習ふりかえりシート」を活用し、 理解度を自覚させる等、意欲的な学習 活動につなげる。
	2. 2回以上 (内1回はAL型授業)	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・年2回の校内研修期間を設定し、可能な範囲(通年で全教職員対象)で「主体的・対話的で深い学び」に向けた研究授業や互見授業を実施する。提出された研修レポートは、教員間で共有し、授業改善に役立てる。</li><li>・学習意欲を喚起させるため、年4回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を生徒に配布し、意欲的な学習計画を立案させる。</li><li>・各学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する意識や理解度など、生徒自身が学習活動をふりかえる時間を確保する。また、授業担当者が「授業評価アンケート」を作成し、わかる授業への工夫、改善を考える参考とする。</li><li>・「研修レポート」の内容や「学習ふりかえりシート」の分析結果について教科や学年で話し合い、指導法の研究や生徒の学習意欲の向上など、双方の授業改善を図る。</li></ul>	
達成度	3. 1回	全体98.4%(2学期)【対前年度比+3%】
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・校内研修期間として、5月と10月の2回を設定した。5月の期間は5日間を設定し、基本的には新採・年次研修の教員を対象にした互見授業とした。しかし、時間を割けない教員に対しては別途教員間で話し合ってもらい、随時研修を行っていただいた。10月の期間は3年間に1度の「学校訪問」の日に1日設定し、ほぼ全教員が参加できる体制となった。</li><li>・教務通信「StudyNavi」では、学習意欲の向上を図る目的で、裏面に考査前の学習計画表を載せるなど、その時期や学年に応じた内容になるようにした。</li><li>・各学期末の「学習ふりかえり WEEK」では、生徒が「学習ふりかえりシート」に自分の学習活動に対する振り返り、授業評価を行った。また、本年より授業担当者が自ら「学習ふりかえりシート」を作成し、わかる授業への工夫、改善に努めた。</li></ul>	
評 価	A	・教員の校内研修参加回数、生徒の理解度とともに達成目標を上回り、高い数値となった。
学校関係 者の意見	観点別評価の導入で先生方の苦労が多い中、授業内容の理解度が目標値を大きく超えており、先生方の努力に敬意を表します。教員と生徒間の成績評価に関する認識を統一するために、ルーブリックのような到達目標及び到達レベルが明確な評価指標の利用を検討してもらいたい。また、ICT 機器・デジタル教材の活用は、並行して一定期間を経た段階で成果の検証に取り組んでいただきたい。	
次年度に 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ2類から5類の引き下げにより、多くの科目でグループ・ペアワークなどのAL型授業が多くなったことで、生徒が主体的に学習に取り組んだ。また、ICT 機器・デジタル教科書の活用など様々な授業改善・工夫が見られた。しかし、教員間で教科を横断した技術の共有や育成する資質・能力の再確認ができなかった。</li><li>・昨年「学習ふりかえりシート」をタブレット入力する形式にしたことで、回答(入力)・集計作業の時間が大幅に減少し、資料の分析・課題について考えられる時間ができたが、どのように改善していくかまでは至らなかった。</li></ul>	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2 (検定指導)	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業科目の各専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け、学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより、学習理解到達度の向上や資格取得者数の増加を図っている。	
達成目標	1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通ビジネス科：ビジネス基礎・マーケティング 国際ビジネス科：簿記・ビジネスマネジメント 会計ビジネス科：簿記・財務会計I 情報ビジネス科：情報処理・ソフトウェア活用	3年生は3年間を通して全商主催検定1級の3種目以上取得達成者数
	90%以上	80人以上
方 策	・生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行い、生徒の学習意欲を引き出す指導方法を工夫する。 ・生徒の資格取得状況より、資格取得実現に向けての具体的方策や改善点について協議する。 ・教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。	
達成度	1年生 100% 2年生 95%	3年生 68名
具体的な取組状況	・生徒に各学科の学習内容、重点科目、取得資格目標検定、実践的活動について説明するため、各学科において学科集会を実施し、学習意欲の高揚と学科における縦の繋がりを図った。また会計科・会計ビジネス科においては、検定取得に向けたモチベーションの向上とこれまでの学習を深める狙いとして、上級生が下級生に対し、マンツーマンで教え合う授業を実施した。 ・検定取得に向けて重点期間を設定し、時間割を工夫するとともに朝学習や放課後補習に取り組んだ。 ・全商検定取得に向け、自由に利用できるプリントを各階に置くことで、各自のペースに併せて理解が深まる仕組みを作った。 ・1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容に関しての理解度調査を実施した。教員は日頃の授業の指導内容を振り返る機会となり、より効果的な指導方法を互いに研究するなど授業改善に努めた。	
評 価	B	1・2年生の多くの生徒が、小学科の基礎科目、重点科目の授業内容をよく理解している。検定内容は新教育課程への移行期であり、旧課程の3年生には再チャレンジしにくい面も見られた。 資格取得に向けて努力を重ねるだけでなく、理解した内容について後輩たちに伝える機会を設けたことにより、プレゼンテーション能力が向上し、進路を決定する際の面接試験でも大いにその力を発揮した。
学校関係者の意見	基礎科目、重点科目での理解度の割合が目標を大きく超えている。検定では、思考力、判断力、表現力を問う問題が多くなり、それに対応するため論理的思考力を身に付け物事の因果関係を把握し、合理的な解決策を見出す能力の育成が重要となる。また、後輩への資格取得指導などは、良き校風として良き習慣の継続とその取組を盛り上げてもらいたい。応用情報技術者試験の合格など高度資格取得実績は商業高校の模範となる素晴らしいものである。	
次年度に向けての課題	・1・2年生で小学科の基礎科目、重点科目の理解度は概ね目標を達成していた。さらに生徒が主体的に学べるような授業展開を工夫することで、理解不足の生徒には個別指導等による継続的な指導を徹底し、学習意欲を高める必要がある。 ・新学習指導要領の実施に合わせ、新検定が実施されてきている。以前より思考力、判断力を求める問題が多く、社会で求められる能力について指導者も理解を深め、指導力の向上を図る必要がある。思考力や判断力を身につけることができる授業となるよう指導方法や学校全体としての仕組み作りを工夫しなければならない。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活（生徒指導）
重点課題	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上
現 状	生活環境が多様化している中、あいさつや時間厳守・頭髪や服装等の自律に乏しい生徒が見受けられる。また、通学に自転車を利用している生徒が多く、昨年度、登校時に数件の交通事故報告（自損含）があった。また、スマートフォンの所有率がほぼ100%に近いなか、SNSを通じた友人とトラブルになったり、使用時間が長くなったりする生徒が見受けられる。
達成目標	遅刻が0の日
	年間を通じて120日以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビジネスマナー、規範意識等を身につけた信頼される生徒の育成を図る。</li><li>・遅刻や頭髪再検査を繰り返す生徒を早期に把握し、本人との面接や保護者と連携を図り、生活習慣の改善を促す指導を行う。</li><li>・他者を理解し、仲間を大切に、認めあい、学びあいながら生徒の育成を図る。</li><li>・月例交通安全指導日を中心に積極的な交通安全活動を促す指導を行う。</li></ul>
達成度	遅刻をした日数 【参考：昨年度37日（1/27まで）】 内訳 1年生 … 10 / 197日 2年生 … 10 / 198日 3年生 … 8 / 174日 計28日 （1/31現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・R5年度は、校則違反者(遅刻、頭髪、スマホ等)は朝指導等から面談に切り替え、校則の意義や遵守の意識向上を図る取り組みに変更した。再発防止を狙いとしている。</li><li>・上記達成度の数字は通院等を除く怠惰による者を計上した。</li><li>・教員と生徒の共通理解を図りながら、頭髪・服装検査を年間6回実施した。</li><li>・自律委員とサイクル安全委員が中心となり、毎月街頭指導（1日・15日）を実施し、交通マナーの遵守を促した。</li><li>・4月に交通安全教室を実施し、自転車の安全利用に関する全校集会を実施した。</li></ul>
評 価	A ・遅刻0の日が、各学年120日以上であった。
学校関係者の意見	登下校時の自転車事故を減らすために、保護者、地域、警察と連携を深め交通安全支援を図ってもらいたい。社会環境の変化に伴い年々マナー指導に逆風が強まる中、職員間で意識を共有し取り組まれている点が高商の強みだと改めて感じた。今後も建設的な議論と決定方針について高商らしく統一した指導をお願いしたい。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・本校校則については時代錯誤的との指摘もあり、見直しについて建設的な議論が必要である。</li><li>・登下校時の自転車による交通事故が多く10件発生しており、スピードの出し過ぎによる苦情もあった。自転車の安全利用について継続的な指導を行う。</li></ul>

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	進路支援 (進路指導)	
重点課題	1年次から3年次まで3年間を見通した進路指導計画の立案	
現 状	進路指導部では、進路希望調査や進路ガイダンスの実施、過年度生の資料をまとめた『進路の研究』の作成・配布を行っている。またクラス担任は、新年度スタート時や次年度の科目登録の前に個人面談を実施し、将来の進路について生徒に考える機会を設けている。しかし本校の生徒は自らの進路を意識する時期が遅く、3年生になる直前でようやく真剣に進路選択を始める生徒が多い。それぞれが一過性のイベントで終わっていること、「進路選択」という全体の流れの中でのそれぞれの位置づけや役割が、生徒にも教員にも明確になっていないことが一因であると考えられる。入学から卒業まで、3年間を視野に入れたバランスのとれた進路指導計画が必要である。	
達成目標	1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間 各学年 7月3時間以上 3月3時間以上	3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校)  3年生：95%以上
	・1年生では職業観の育成を目標に、2年生では個々の進路目標の具体化を目標に、7月と3月の特別編成授業の期間を中心に進路学習の時間を計画する。実施の際には、進路指導計画全体における当該行事の位置づけ・その後の見通しが、生徒にも教員にも明確になるように工夫する。また中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り高校でのキャリアパスポートとして記録に残していく。 ・3年生は、個々の進路目標の達成が重要となるため、就職者、進学者、それぞれの希望に合ったガイダンス・特別講座等を計画する。今年度は4年制大学進学希望者が多いため、一人でも多くの生徒が希望を叶えられるよう、開催方法を工夫する。就職内定先・進学予定校が決定した時点で、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。	
達成度	4-7月 ・1年生3時間 ・2年生2時間 2-3月 ・1年生4時間 ・2年生4時間	3年生 進路に対する満足度 就職 99.5% 進学 96.7%
具体的な 取組状況	・1年生：4月の宿泊学習の中で職業についてのワークショップ2時間、7月にキャリアパスポートについての説明1時間、3月に進路ガイダンス2時間、キャリアパスポートのまとめ2時間を実施予定。 ・2年生：7月に進路ガイダンス1時間を実施し、クラスで進路学習を1時間実施した。また、2月には3年生と語る会1時間と3月には進路別ガイダンス3時間を実施予定である。その他、土曜講座として就職希望者対象にガイダンスを4時間予定している。 ・3年生：進学希望者対象に土曜講座で小論文・面接対策講座(7月～11月・全11回)、就職希望者には就職ガイダンス(7月)、就職試験直前対策の講座(8月)の実施と、応募前の企業見学を3社以上行った。公務員希望者には公務員試験対策講座(4月～7月・全4回)を実施した。	
評 価	B	3年間を視野に入れた進路学習の機会の設定を目指し、1・2年生の進路学習の時間をほぼ確保できた。3年生については、土曜講座等を充実させることで様々な希望進路の実現をサポートすることができた。
学校関係者の意見	進路実現100%という目標に向け、今まで以上に3年間を見通した系統的な進路指導の充実を目的として、学年に応じた段階的な進路学習の目標を設定し、生徒が職業や進学先について自己理解を深め、適性を知って進路を決める時期の早期化を行ってほしい。	
次年度に 向けての 課 題	達成度の数字については達成できている。進路指導の中身としてもほぼ達成できたように思う。ただ、進路指導部としての確固たるリーダーシップがもっと必要に思えた。特別授業の総時間数が少なく進路学習への有効利用が必要である。また、インターンシップ等の行事と絡めたり、通常の時間割内のホームルームを利用したり、実施方法、実施時期のさらなる検討が必要である。やるべきこと、やらなくてもいいことの精選をさらに進めることが必要だと考える。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成きた C：達成できなかった)

(様式5)

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -	
重点項目	特別活動
重点課題	部活動の充実と競技力の向上
現 状	本校では、部活動を人格形成に必要な3つの柱の1つとして位置づけ、各部が高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行っている。また、スポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。部活動への参加意識を明確にし、その活動を行うことにより、成就感・達成感を味わい、心の成長が感じられることを目指す。
達成目標	部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合
	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・部活動指導員・特別活動指導員及びテクニカルエキスパートや各部のOB等から協力を得ながら、いろいろな情報を活用し、技術指導・生活指導等を充実させる。</li><li>・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。</li><li>・スポーツ庁および県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設け、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。</li><li>・生徒が目標をもって学校生活に取り組めるよう、生徒会とともに特別活動の充実を図る。</li></ul>
達成度	92.7%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が部活動で自己の成長を実感できるように、活動報告を適時に行い、各部活動の活躍を全校で共有した。</li><li>・部活動指導員及び特別活動指導員、テクニカルエキスパートによる技術指導等を行い、各部の活動内容の充実を図った。</li><li>・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図った。</li><li>・県内外の強豪校との練習会等により、技術の向上を図るとともに意識の高揚に努めた。</li></ul>
評 価	A 部活動を通して、競技力(成績等)や心が成長したと感じている生徒は、「大いにある」が44.2%、「ある程度ある」が48.5%であった。
学校関係者の意見	部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合が目標を上回っており、これは生徒の効率的な部活動による時間の確保や、主体的に活動する指導を工夫して技能や成績を向上させる取組と先生方の熱意ある指導の賜物である。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が主体の活動を推進し、知・徳・体にわたる「生きる力」を育み、人格の形成を図る。</li><li>・中学校の部活動の取り組みと本校の教育の柱の一つである部活動の位置づけの違いを理解させて活動させる。</li><li>・本年度同様、スポーツ庁・文化庁のガイドラインを遵守することを一層徹底する。</li><li>・部活動指導員・特別活動指導員・テクニカルエキスパートやOB等からの協力を得ながら、情報を活用し、充実した部活動になるように工夫をしていく。</li></ul>

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)